

感覚動詞に後置される「-到、-見」(その2)

成 戸 浩 嗣

キーワード

- (1) 動作表現・描写表現
- (2) 客体の必須度・情報価値
- (3) 到達点
- (4) 主要部前項型・主要部後項型
- (5) 主たる表現意図・コトガラの主たる内容

2. 1 意志性を含まない「闻见」

1.3 で述べたような「-見」の特徴は、「闻」に後置された場合にもあてはまる。例えば

(37) 他忽然**闻到**手绢有一股香味儿。

(37)' 他忽然**闻见**手绢有一股香味儿。

においては、表現中に「忽然」が用いられているため、「ハンカチから香りがした」というコトガラは、主体が予期していなかったことが明白であるが、この場合には「-見」を用いた(37)'の方が「-到」を用いた(37)よりも better であるとされる。このような相違は、無意志の動作であることを明示する成分である「-見」の働きによって生じると考えられる。

また、

(38) 一进门我就**闻到**一股香味儿。

(38)' 一进门我就**闻见**一股香味儿。

では、表現の整合性という点において特に相違は見られないが、「突然」を加えて

(39) 一进门**突然****闻到**了一股香味儿。

(39)' 一进门**突然****闻见**了一股香味儿。

とすると、(37), (37)' の場合と同様に、「-見」を用いた (39)' の方が、「-到」を用いた (39) よりも better であるとされる。

さらに、「酸味儿」を客体とする

(3) 我一进屋就闻**到**了一股酸味儿。

(3)' 我一进屋就闻**见**了一股酸味儿。

の場合、(3)'における「酸味儿」は、主体が嗅ぎたくないにおいであるというニュアンスを含んでいるのに対し、(3)における「酸味儿」はそうではないとされる。これは、主体の意志的な動作の実現を表わすことのできる「-到」を用いた(3)における「酸味儿」は、主体があらかじめそのようなにおいがすることを予期または期待していたにおいであるという可能性があるのに対し、「-見」を用いた(3)'における「酸味儿」は、主体が予期も期待もしなかった、主体にとってはむしろ嗅ぎたくないにおいでさえあるということになるためである。このことは、「酸味儿」を「药味儿」に置き換えて

(40) 我一进屋就闻**到**了一股药味儿。

(40)' 我一进屋就闻**见**了一股药味儿。

とすると一層明白となる。(40)、(40)'に適切な後件を続けると、例えば

(41) 我一进屋就闻**到**了一股药味儿。是不是谁病了。

(41)' 我一进屋就闻**见**了一股药味儿。我就退出来了。

となるが、「-見」を用いた(41)'においては、「药味儿」は「我」が嗅ぎたくないにおいであるというニュアンスを帯びており、「(薬のにおいがしたのでそれがいやで)部屋から出て来た」という内容の後件が続いているのに対し、(41)の「药味儿」は、主体にとって拒否すべきにおいとしては表現されておらず、後件は薬のにおいがすることに対する話者の否定的な価値判断を含んではいない。(41)'の後件を「是不是谁病了」に置き換えた表現は、(41)よりも整合性が劣るとされる。

このように、「-見」が用いられると、においに対して否定的な価値判断がなされているというニュアンスを含む場合が存在するが、これは、無意志の動作を表わす「-見」の働きによる。このような場合には、においを嗅ぐことに対して主体が消極的であることはいうまでもなく、「闻」は無意志の動作である可能性が高いと考えられる。

これに対し、主体がにおいに対して肯定的な価値判断をしていると判断される場合には、「-到」が用いられる。例えば

(42) 甲：你们这里喝茶不是把茶叶放进茶壶里，而是直接放进这种带盖的杯子里呀？

乙：我呢，开头觉得这样可能喝不好，没想到茶叶自然就沉下去了。

丙：对。因为用来沏的是滚水。这种喝法从17世纪就开始了。这样，冲开水的时候能直接闻**到**它的香味，又因为有盖儿，茶的香味也能保住。

においては、「香味」に対して話者が「嗅ぐに値する」という判断に立っていることは、「香味」自身が有する肯定的な概念と、「湯飲みに直接茶葉を入れ、そこに熱湯を注ぐという方法によってお茶の香りを直接にかぐことができる(=楽しむことができる)」という対話の内容から明白である。このような対話の中における「闻」は、意志的な動作であるか、あるいは意志的な動作である可能性が高いため、「-見」よりは「-到」を用いる方が better であるとさ

れる。

また、

- (43) 当我们走进刘老师家时, 看见桌子上摆满了丰盛的酒菜。刘老师的爱人正在厨房里忙着, 可以**闻到**炸鱼的飘香。

においては、「炸鱼的飘香」が肯定的な概念を有する成分であり、かつ、「刘老师的爱人正在厨房里忙着」という情景を目にした時点で、「炸鱼」のにおいがすることを話者が予期していた可能性があるため、「闻到」が用いられている¹⁰⁾。(43)の「闻到」を「闻见」に置き換えると、非文あるいは表現の整合性が劣るとされる。

さらに、

- (44) 走到了 A 仓库门口, 狗就**闻到**了毒品味儿。

- (44)' 走到了 A 仓库门口, 狗就**闻见**了毒品味儿。

における「走到了 A 仓库门口」は、「狗」が何らかの目的をもって(多くの場合ヒトに連れられて)倉庫の入り口まで行ったことを表わすと考えるのが自然である。そして、通常は、犬は食物などのにおいなら自らの意志でかぎあてて見つけるのであるが、「毒品味儿」は、訓練された犬がヒトに連れられ、与えられた役目としてかぎあてたにおいである可能性が高い。いずれにしても、(44)、(44)'は、犬が最初から倉庫の中を調べる目的をもって嗅ぎまわった結果として「毒品味儿」をかぎあてたというコトガラを表わす表現であり、このコトガラは目的をもった動作、すなわち意志的な動作であるということになるため、「-到」を用いた(44)の方が(44)'よりも better であるとされる。

一方、

- (45) “刚才准是**听到**了什么声音, **闻到**了什么味儿, 兔子才跑了!”

- (45)' “刚才准是**听见**了什么声音, **闻见**了什么味儿, 兔子才跑了!”

の両者を比較すると、(45)は、例えば「常に不審な物音に対して注意をはらっているウサギが、何かの音やにおいをとらえたので逃げた」ことを前提とした表現であるのに対し、(45)'は、例えば「予期せずにとらえた何かの音やにおいに驚いてウサギが逃げた」ことを前提とした表現であるという相違が見られるが、このことは、(45)の「听到」、「闻到」は有意志の動作、(45)'の「听见」、「闻见」は無意志の動作であることを意味する。

2. 2 内容理解を含意する「闻到」

以下の表現例はいずれも、主体が嗅覚器官によってにおいをとらえることを表わしているが、そのにおいがどのようなものであるかを問題としてはいない。

- (46) 一伤了风就什么也**闻不见**, 吃东西也没滋味。

- (47) 我有鼻炎, **闻不见**味儿。

(46)、(47)はそれぞれ、「風邪をひくとおいがわからなくなり、ものを食べてもまずい」、

「私は鼻炎なので、においがわからない」という内容を表わしている。これらの表現例におけるにおいとは、具体的な個別のにおいではなく、すべてのにおい(=におい全般)であり、このような場合には、「-到」よりも「-見」を用いる傾向が存在する¹¹⁾。におい全般がわからないということは、言うまでもなく嗅覚が働かないということであり、主体の属性としての知覚能力を問題としている。

また、

(48) 你没**闻到**一股糊味儿吗？

(48)' 你没**闻见**一股糊味儿吗？

はいずれも、「こげたにおいがしませんか」という内容を表わすが、前者は例えば「我怎么觉得有一股糊味儿呢？(どうしてこげたにおいなんかがするのだろう)」と話者が感じた上で、聞き手である「你」に対して「こげたにおいがしませんか？(するでしょう)」とたずねる場合に用いられる表現であるのに対し、後者は例えば、こげたにおいがしているにも拘わらず聞き手がそれに気づいていないことに対する話者のいらだちを含んだ表現として用いられる、という相違が見られる¹²⁾。(48)'における話者のいらだちは、例えば

(48)" 你没**闻见**一股糊味儿吗？ 光顾聊天儿，锅还在炉子上放着呢。火忘了关了。

のように後件を続けると一層明白となり、(48)"の「-見」を「-到」に置き換えた表現よりも better であるとされる。(48)', (48)"において感じられるとされる話者の聞き手に対するいらだちを具体的に表現すれば、「あなたはにおいがわからないのか」、「あなたは鼻がおかしいのではないか」ということであり、どのようなにおいであるかよりも、「你」がにおいをとらえられなかったという知覚能力を問題としているのである。

(46), (47)に対し、

(49) **闻到**炉子上的汤，使我觉得饿了。

(49)' **闻见**炉子上的汤，使我觉得饿了。

は、「炉子上的汤」のにおいが「我」に及ぼした作用について後件で述べられており、主体が具体的ににおいをとらえたことを表わしているが、「-見」を用いた(49)'よりも、「-到」を用いた(49)の方が better であるとされる。同様に、

(50) 狗**闻到**食物时，常常吸鼻子。

(50)' 狗**闻见**食物时，常常吸鼻子。

の場合も、(50)'よりも(50)の方が better であるとされる。においに対する主体の反応を述べた表現は、主体が単ににおいをとらえるばかりでなく、何のにおいであるか、どのようなにおいであるかをも理解することを前提としている場合が多い。このため、単ににおいを嗅覚によってとらえたことを表わす「闻见」の表現よりは、においの内容までも理解したことを表わす「闻到」の表現を用いる傾向が強いのである。

また、

(51) 门开了，开门处赫然站着一个高大的黑女人。虽然我住的这个城市黑人很多，但像这

么纯种的黑人我却第一次见到，她真是黑得跟炭一样，短鼻子，厚嘴唇，大胸脯，像一头黑色的母猩猩一样挡在门口。我估摸她应该是戈登这一家的管家或女仆，肯定不会是主人，但我还是把几句简单的话说得磕磕绊绊，嘴里像含了碎石子一般。她听明白了我的来意，笑都不笑，只哼了一声（也像猩猩）挪动了一下身子让出道来。

经过她的时候，我**闻到**她身上有一股奇怪的香味。

においては「她身上有一股奇怪的香味」の部分で、

(52) 他的房门关着，我听到房间里隐约有爱米的笑声传了出来，我还**闻到**门缝里透出的一股异香，就是我从他和凯西身上**闻到**过的那种香味，令人想到童话中阿拉伯深宫中使用的东方香料。

においては「门缝里透出的一股异香」，「我从他和凯西身上**闻到**过的那种香味，令人想到童话中阿拉伯深宫中使用的东方香料」の部分で、それぞれにおいて述べている部分である。(51)は、「我」がある家を訪ね、入り口で出迎えたメイドらしき黒人女性によって家の中に通された際の描写であり、「我」が家の中に入ろうと黒人女性のそばを通った時に「一股奇怪的香味」がにおったことを表わしているが、「奇怪」は「香味」に対する話者（＝主体）の判断である。また、(52)は、部屋の外にいる「我」が、ドアの隙間からただよってくる「一股异香」をとらえ、そのにおいは「我」の記憶に残っている「他」、「凯西」の体のにおいであると話者（＝主体）が判断したことを表わしている。(51)、(52)は、話者の判断という、においに対する内容理解を前提とした成分を含んでいる点においては(49)、(50)と共通しているが、主体とにおいとの間の方向的な関係を表わす成分を含んでいる点においては異なる。すなわち、(51)における「经过她的时候」は、主体がにおいのする方向に向かって移動したことを表わし、(52)における「门缝里透出的」、「从他和凯西身上」は、においが主体の方向に向かってきたことを表わしている。このように、主体とにおいとの間の方向的な関係を表わす成分を含んだ表現の場合、においは「闻」の到達点としての性格が強くなるため、このことも(51)、(52)において「-到」が選択されている要因であると考えられる。(51)、(52)の「-到」を「-见」に置き換えても自然な表現として成立はするが、「-到」を用いる方が better であるとされる。特に、(52)の「那种香味」は、「我」の記憶に残っているにおいであり、このにおいから「令人想到童话中阿拉伯深宫中使用的东方香料」という想像がはたらいっている。このため、「那种香味」は、発話時においてその場に存在する具体的なにおいでないことは明白であり、抽象的なにおいとしての性格を有しているといえることができるが、このような点からも「-到」が選択されていると考えられる。

同様の例としてはさらに、

(53) 送两个孩子回家的人一个劲地夸孩子，说他们那么小，又身无分文，却知道往家乡的方向走，特别是那个小的，知道沿着铁路走，又迷不了路，又能弄到吃的，瞅准了还能爬上一辆货车，让车带上一段路。家里人就问远子，问他怎么就知道沿着铁路走。远子想了想，说，是推子。推子说，他能**闻到**家乡的味道。家里人就笑骂道，胡说什么

呀，家乡是什么味道？牛屎味道？苦艾味道？梨花味道？就算家乡有味道，隔着几千公里，拿什么去闻？骂过以后又抱着小哥俩，哭一阵，笑一阵，亲得不行。が挙げられる。(53)は、幼い兄弟二人が故郷に帰ろうとして線路に沿ってずっと歩きつづけた後、人に助けられて故郷まで送りとどけられ、家族から「どうして線路に沿って歩くことを思いついたの」と尋ねられたのに対して、「僕は故郷のにおいがわかるんだ」と答えたことを表わしている。「家乡的味道」は明らかな比喻であって、嗅覚によってとらえることのできる具体的な個別のにおいでないことは明白であるため、このような抽象的な概念としてのにおいをとらえることを表わす場合には、「闻见」よりは「闻到」を用いる方が better であるとされる。

3. 1 内容理解を含意する「看到」

視覚を用いた動作を表わす「看」の場合にも、1.1, 1.4, 2.2 で述べたと同様の特徴が存在する。例えば、「看见」の働きは視覚によって映像をとらえる動作(＝目で見える)を表わすにとどまるのに対し、「看到」のそれは、視覚によって映像を「見る」と共に、主体がその映像の内容をも頭脳によってとらえることを表わすという相違がある。このことは換言すれば、「看见」は単に「見たこと」を表わすのに適した表現形式であるのに対し、「看到」は、見ただけでなくさらに一步踏み込んで「(見て)理解したこと」を表わすのに適した表現形式であるということである。例えば

(54) 昨天可把我吓了一跳，当时看到你那么难受。

は、表現中に「把我吓了一跳」のような、「見た」ことに対する主体(＝話者)の反応を表わす前件が存在するが、このような場合には、「你那么难受」が表わす状況を主体が理解したために驚いたのであるため、「看到」が用いられている。(54)の「看到」を「看见」に置き換えると、非文もしくは不自然な表現とされる。同様に、

(55) 看到它，由于太滑稽，不由得笑了起来。

(56) 自己在前几天看到小伙计那可怜的样子，从心里同情他。

においては、「太滑稽」、「那可怜的样子」が話者(＝主体)の判断を、「不由得笑了起来」、「从心里同情他」が見た情景に対する主体の反応をそれぞれ表わしており、また、

(57) 去外国旅游仅半年，归来后看到富士山时，不禁吃了一惊，多么美丽的山峰！

においては、「不禁吃了一惊」が主体の反応を表わし、「多么美丽的山峰！」が主体の反応を具体的な言葉にした成分となっているために「看到」が用いられている。(55)～(57)いずれの表現例も、「-到」を「-见」に置き換えた場合よりも better であるとされるが、これは、「看见」を用いてコトガラを表現すると、「見た」こと自体を述べる点に表現の比重が置かれるためであり、「見た」ことに対する評価(話者の判断、主体の反応)を表わす場合には、「看见」よりも「看到」の方が適していると考えられる¹³⁾。

上記のような相違に加え、さらに以下の表現例においては、表現の前提となる事実が、「看到」を用いた場合と「看见」を用いた場合とで異なる。

(58) 看到他有那么多的钱，我感到奇怪。

(58)' 看见他有那么多的钱，我感到奇怪。

(59) 看到他的面孔，总觉得有些害怕。

(59)' 看见他的面孔，总觉得有些害怕。

(58), (58)' ~ (59), (59)' はそれぞれ、「我感到奇怪」、「觉得有些害怕」のような主体の反応を表わす成分を含んでいるため、「看到」を用いた(58), (59)の方が、「看见」を用いた(58)', (59)' よりも better であるとされるが、(58)' は、「我」が「钱」を実際に目の前にしたことを表わす表現であるのに対し、(58)は、(58)' と同様の内容を表わすことができる外、例えば、「他」が預金などの形で多くのお金を持っているのを見たこと、すなわち、目の前にある現金を見たのではなく、「他有那么多的钱」を抽象的な情報の形でとらえたことを表わす表現として用いることもできる。また、(59)' は、主体が「他的面孔」を直接目にすることを表わす表現であるのに対し、(59)は(59)' と同様の内容の外、写真などで間接的に見ることを表わす表現として用いることもできる。

主体が視覚、頭脳の双方によって客体をとらえた上でコトガラを表現する場合には「看见」よりも「看到」の方が適しているということは、以下のような表現例において一層明白となる。

(60) 今天早上，山田醒来时，我看到他的眼睛已有精神，不象昨天发病时那样灰暗无光了。

但他仍感到全身乏力，不想吃东西。

は、「我」が単に「他的眼睛」を見たことを表わしているのではなく、病気であった彼の様子を観察した結果、「他的眼睛」が前の日よりも元気で生き生きとしていることを見てとったことを表わしており、「看到」の客体である「他的眼睛已有精神，不象昨天发病时那样灰暗无光了」は主体(=話者)の判断を表わす部分でもある。(60)の「看到」を「看见」に置き換えると非文とされる。

また，

(61) 我第一次参加这样的追悼会，追悼我所熟悉和敬爱的人。死者的老伴递给我一朵小黄花。他的黑苍苍的脸上没有一丝泪痕，但比挂满泪珠还叫人受不了。在这张脸上，我看到了孤独，人到老境的孤独，失去配偶的孤独。

における「看到」の客体は「孤独」という抽象的なものであり、これは主体が「死者的老伴」の顔を見、その表情を観察した結果として読み取ったものであるため、「看见」を用いた場合よりも better であるとされる。

一方，

(62) 我定了定神，对站着等我回话的许恒忠说：“我在给小鲲做鞋子。就要好了。”我看见他的眼光闪了一下，立即又熄灭了。

における「他的眼光闪了一下，立即又熄灭了」は、「我」が「他」の目の表情を読み取った結

果としてとらえられたものであり、実際に彼の目が光ったわけではないため、本来ならば「看到」を用いるべきところであるにも拘わらず「看见」を用いている。このような「看见」の用法は、「他的眼光闪了一下，立即又熄灭了」で表わされる目の表情を、あたかも読者の目の前に存在しているかのように、具体的に生き生きと描写する効果を生じているが¹⁴⁾、この効果は、無意志のマーカである「-见」が、コトガラを客観的に描写するのに適しているため生じると考えられる。

さらに、以下の表現例は、主体が心に思い描いた想像上の情景を表わしている。

(63) 啊，这些给荒凉的大地铺上了锦绣花巾的人们，这些从狗尾草，蟋蟀草中给我们选出了稻麦来的人们，我们该多么感念他们！想像的羽翼可以把我们带到古代去，在一家家的门口清清楚楚看到他们在劳动，在饮食，在希望，在叹息，可惜隔着一道历史的门限，我们却不能和他们作半句的交谈！

想像上の情景は、言うまでもなく実際に目で見ることとはできないため、この場合に「看见」を用いると、「看到」を用いた場合よりも表現の整合性が劣るとされるか、あるいは不自然とされる。

3. 2 意志性を含まない「看见」

1.3 において、「V见」が表わす動作は意志性を含まないのに対し、「V到」が表わす動作は、意志性を含む場合、含まない場合のいずれもが存在するということを述べたが、このことは、以下の表現においても同様である。

(64) 要看到成绩，要看到光明。

(64)は一種の命令表現であり、「成果に目を向けなければならず，光明に目を向けなければならない」という話者の意志を表わしている。(64)の「-到」を「-见」に置き換えた

* (64)' 要看见成绩，要看见光明。

は非文とされる。(64)の「看到」は具体的な個別の動作ではなく，そのようにすべきであるという抽象的な動作であるため，「見た」という事実を前提としてはいない。

また，

(65) 无论多么缺乏感情的人，看到那种情况也不能不流泪的。

(65)' 无论多么缺乏感情的人，看见那种情况也不能不流泪的。

はいずれも「どんなに感情のとぼしい人であっても，そのような状況を目にしたならば，きっと涙を流すだろう」という内容を表わすが，(65)の場合，このコトガラはヒトから伝え聞いたか，もしくは仮定の内容であるとされ，実際にその場面を見た上での表現であるとしても，話者一人であるというニュアンスを含んでいるとされる。これに対し，(65)'の場合には，話者・聞き手の双方が，実際に「那种情况」を目にしたことを前提として用いられる表現であるとされる。上記のことから，「看见」は実際に見たことを前提として用いられるのに対し，

「看到」は必ずしもそうではなく、事実を前提としているか否かに拘わらず用いられることが明白となった¹⁵⁾。

一方、主体の意志的によらないで映像を目にしたことを表わす場合には、「-見」が用られる傾向が存在する。例えば

(66) 从火车的车窗里看见了海。

は、列車の窓から海が見えたことを表わす情景描写の表現であり、これに適切な後件を続けると、例えば

(66)' 从火车的车窗里看见了海，海上有两条船。

のようになる。この表現においては、後件の「海上有两条船」がいわゆる存現文であるが、前件の「从火车的车窗里看见了海」も「トコロ+V+モノ」の形で「列車の窓から海が見えた(=列車の窓の外には海があった)」というコトガラを表わす表現、すなわち存現文に準じた情景描写の表現であるということが出来る。このような場合には、主体の意志を含意する可能性のある「-到」よりは、そのような可能性のない「-見」を用いた方が表現の整合性が保たれるようであり、

(66)'' 从火车的车窗里看到了海，海上有两条船。

は、(66)' よりもやや不自然な表現であるとされる¹⁶⁾。

また、

(67) 他低下头看见了地下有一个盒子。

は、「地下有一个盒子」の部分が存現文であり、下を見たらたまたまそのような情景が目に入ったという無意志の動作を表わす表現となっている。(67)は、「-見」を「-到」に置き換えて

(67)' 他低下头看到了地下有一个盒子。

としても不自然とはされないが、(67)'の方が better であるとされる¹⁷⁾。

さらに、

(68) 我看到远处跑过来三个人。

(68)' 我看见远处跑过来三个人。

の両者を比較すると、前者は動作表現としての、後者は描写表現としての性格が強いという相違が見られる。それぞれに後件を続けると、例えば

(69) 我看到远处跑过来三个人，马上同他们打招呼。

(69)' 我看见远处跑过来三个人，每个人抱着很多行李。

のようになるが、(69)の後件は「我」の動作を表わしているのに対し、(69)'の後件は「三个人」の様子を描写している。(68)は、「看到」の後に「远处跑过来三个人」という存現文が続いている点で(67)'と共通しているが、主体の意志的な動作を表わすことができる「-到」と、描写表現である「远处跑过来三个人」との間には矛盾が生じている。このため、(68)は単独で用いることはできず、例えば(69)のように動作を表わす後件を続けてはじめて安定する。

これに対し、描写表現である(68)'は単独でも用いることができる。

(68), (68)'と同様に

(1) 他看到了桌子上的黑面包。

(1)' 他看见了桌子上的黑面包。

(70) 我在自由市场看到了一个竹花篮。

(70)' 我在自由市场看见了一个竹花篮。

の場合も、「看到」を用いた(1), (70)に対して適切な後件を続けると

(71) 他看到了桌子上的黑面包, 马上就拿了过来。

(72) 我在自由市场看到了一个竹花篮, 当场就买下来了。

のように動作を表わす成分が続くため、前件の内容も動作であることが明白となる。これに対し、「看见」を用いた(1)', (70)'はそれぞれ、「桌子上的黑面包」、「一个竹花篮」を見たことを表わす、いわば一つの完結したコトガラを表わす表現であり¹⁸⁾、「看见」の動作性は「看到」ほど強くないため、後件としては、例えば

(71)' 他看见了桌子上的黑面包, 那个面包都发了霉。

(72)' 我在自由市场看见了一个竹花篮, 里边放着几枝花儿。

のように、客体である「桌子上的黑面包」、「一个竹花篮」についてさらに詳しく描写する成分が続く。(71), (72)における「看到」は、「看见」のように単に「見た」ことを表わすだけでなく、それぞれ「(手にとるに値するものを) 見つけた」、「(買うに値するものを) 見つけた」ことをも表わしており、主体である「他」、「我」は、客体である「黑面包」、「竹花篮」に対し、あらかじめ見ることを意図してはいなかったが、見た時点においては「見るに値する」という肯定的価値判断をしていると考えられる。

また、

(73) 我在自由市场看到了一个竹花篮。这个花篮做工精细, 表面编织着山水, 又好像是一幅小小的山水花儿。真可以说是一件工艺品了。

は、後続の「这个花篮做工精细, 表面编织着山水」が客体(=竹花篮)を詳しく描写している点においては(71)', (72)'と共通しているが、さらに「又好像是一幅小小的山水花儿」及び「真可以说是一件工艺品了」の部分が、客体を描写すると同時に、話者の肯定的価値判断を表わしている。このため、(73)の「-到」を「-见」に置き換えると、表現の整合性は低くなるとされる。(73)に対し、例えば

(74) 我们还看见路两旁的货摊儿排成一排呢。都在卖衣服、青菜、水果、还有各种吃的。

の場合には、後件の「都在卖衣服、青菜、水果、还有各种吃的」は、客体についての描写のみを表わして話者(=主体)の判断を含んでいないため、「看见」が用いられている。

(73)と同様の例としては、さらに以下のようなものが挙げられる。

(75) 从窗户看到的雪景像一幅画儿一样。

(76) 在陪我妻子回娘家的火车上, 从火车的车窗里看到海, 这是我第一回看到海。

(75)は(73)と同様に、「像一幅画儿一样」の部分が、客体「雪景」を描写すると同時に、話者(=主体)の肯定的価値判断を表わしている。また、(76)においては、「这是我第一回看到海」が海を初めて見たことを表わしているが、海を初めて見た場合、一種の感動を覚えるのが通常であり、「这是我第一回看到海」は、暗に主体の肯定的価値判断を含んでいるとみてさしつかえない。(75)、(76)の「看到」を「看见」に置き換えると、表現の整合性は低くなるとされる。

客体に対する肯定的価値判断は、以下のように客体の連体修飾成分によっても表わされる。

(77) 我有个朋友从外国回来，在他那儿我**看到**了不少好东西。

(78) 在故宫我**看到**了很多历史文物。

(79) 不，谈不到感兴趣，不过是**看到**一些自己觉得新奇的，就想问一问。

(80) **看到**中意的句子就随手抄写下来。

上記の表現例における「好东西」、「历史文物」、「自己觉得新奇的」、「中意的句子」が、客体に対する肯定的価値判断を含んだ客体であり、見るに値するものである。このような場合も「看到」が用いられ、「看见」を用いると

*?(80) 看见中意的句子就随手抄写下来。

が非文もしくは不自然な表現とされる外、

(77) 我有个朋友从外国回来，在他那儿我**看见**了不少好东西。

(78) 在故宫我**看见**了很多历史文物。

(79) 不，谈不到感兴趣，不过是**看见**一些自己觉得新奇的，就想问一问。

はそれぞれ、(77)～(79)よりも整合性が低いとされる。

また、

(81) 新婚夫妇胸前戴着印有‘囍’字的红花，热情地招待客人。客人们不时地开上几次有趣的玩笑。气氛活跃，毫无拘束之感。听说晚上还有闹洞房的习惯。遗憾的是我有事没能**看到**那最精彩的一幕。

は中国の結婚式について述べた文章であるが、「那最精彩的一幕」が見るに値するものであることは、連体修飾成分「最精彩」の存在と、「闹洞房」の場面が見られなかったことに対して「遗憾」という判断が述べられていることにより明白であるため、「看到」が用いられているのであり、「看见」を用いるよりも better であるとされる。

さらに、

(82) 到日本去，可以**看到**真的富士山。

(83) 如果到上野动物园去，就可以**看到**大熊猫。

においては、客体の「真的富士山」、「大熊猫」自身が「見るに値するもの」と考えてさしつかえないため、「看见」ではなく「看到」が用いられている。「看到」を「看见」に置き換えた

(82) 到日本去，可以**看见**真的富士山。

(83) 如果到上野动物园去，就可以**看见**大熊猫。

の整合性は、(82), (83)に劣るとされる。

以上のことは、例えば

(84) 早晨起床后, 看到窗户外不远的地方有一个白塔。

(84)' 早晨起床后, 看见窗户外不远的地方有一个白塔。

のような、客体の位置に存現文が置かれた表現例についてもあてはまる。(84)には、「前の晩には白塔が見えなかったが、朝起きたら見えた」というニュアンスがあるのに対し、(84)'にはそのようなニュアンスはなく、単に白塔が見えたことを表わす情景描写の表現である。(84)は、例えば「前の晩遅く部屋に着いたため、外がすでに暗くなっていて残念ながら白塔が見えなかったが、今朝起きたら見えた」ような場合に用いられ、「白塔」に対する話者の肯定的価値判断を含んでいる。

「見るに値するもの」を見る場合に「看到」が用いられる傾向があるということは、例えば

(85) 甲：前几天去了特区，真使我惊奇。乙：是吗。你看到什么了，那么兴奋。

(85)' 甲：前几天去了特区，真使我惊奇。乙：是吗。你看见什么了，那么兴奋。

のように、主体と話者とが異なる場合においても同様である。上記の表現例における「看到」、「看见」の主体は甲(=你)であるが、「你看到什么了」及び「你看见什么了」は乙の発話である。(85)の「你看到什么了」では、乙が甲の話に関心をもった、すなわち、見るに値すると判断した上で「何を見たのか」と尋ねているのに対し、(85)'の「你看见什么了」では、乙は甲の話に対して特に関心をもっていないという相違が見られる。

同様に、

(86) 小王，你看到我的字典了吗？

(86)' 小王，你看见我的字典了吗？

も、「看到」、「看见」の主体と話者とが異なっている。両者を比較すると、(86)の場合には、例えば「小王」が「我的字典」をさがすのを手伝ってくれており、発話時において小王はすでに「我的字典」のありかを知っているであろうという話者の期待を前提としている可能性があるのに対し、(86)'の場合にはそのような可能性はなく、「我的字典」を見かけたかどうかを単純にたずねる表現であるという相違が見られる。(86)の「我的字典」は「見るに値するもの」、換言すれば「見られることが期待されているもの」、さらに正確に言えば「見つかることが期待されているもの」であり、この期待は主体の「你=小王」ではなく、話者によってなされている。

見られることが期待されているものの例としては、さらに以下のようなものが挙げられる。

(87) 一到春节，在中国去哪儿都会看到红纸黑字的对联。

? (87)' 一到春节，在中国去哪儿都会看见红纸黑字的对联。

(88) 在中国的大街小巷，你可以看到，有的男子提着篮子在买菜，有的抱着孩子在哄逗，有的在洗衣或做饭。

(88)' 在中国的大街小巷，你可以看见，有的男子提着篮子在买菜，有的抱着孩子哄逗，

有的在洗衣或做饭。

(87), (87)' の場合, 春節になると家々の門に「对联」を貼ることは中国の伝統的な習慣であり, 春節になれば当然それを目にすることが期待されるため, 「看到」を用いた(87)は自然な表現として成立するが, 「看见」を用いた(87)'は不自然であるとされる。また, (88), (88)' の場合, 中国では男性も家事をするのが普通であり, 男性が買い物かごを下げて買い物をしたり, 子供を抱いてあやしたり, 洗濯や炊事をしたりする姿が当然見られることを前提としているため, (88)' よりも(88)の方が better であるとされる。

また,

(89) 怎么看不到穿旗袍的呢?

は, 「どうしてチャイナドレスを着た人がいないのだろう」という話者の疑問を表わすが, 話者がそのような人の姿を見ることを期待していたことは, 「怎么」の存在から明白であるため, 「-到」を「-见」に置き換えると不自然とされる。

一方, 前述したように, 主体が予期せずにある情景を目にした場合には, 「看见」が用いられる傾向がある。(43)における「看见桌子上摆满了丰盛的酒菜」は, 「我们」が「刘老师家」に入った時に目にした情景を表わしているが, 「看见」が用いられることによって, 「劉先生がもてなしの準備をしているとは思ってもよらなかった」というニュアンスを含んだ, 主体にとって予期していなかった突然のコトガラとして情景が目に入ったことを表わす表現となっている。

3. 3 「看到」, 「看见」と表現の重点

前述したように, コトガラに対する評価(話者の判断, 主体の反応)を表わす成分を含む表現においては, 「看见」よりも「看到」が用いられる傾向が存在する。評価は, 主体が映像を視覚でとらえた上, そこから映像以外の様々な情報をも読み取ることによってなされることが考えられる。さらに例を挙げると

(90) 参观鲁迅小时候常去玩的“百草园”时, 看到一种树枝打着结的树。老人告诉我: “这不是人打的结, 是自然长成这样的。”真是不可思议的植物啊。

においては, 話者が「一种树枝打着结的树」を見ただけでなく, さらに老人の説明を聞いて感嘆し, 「真是不可思议的植物啊」と述べている。

また,

(91) 有个北京人去河南出差, 正在过一小桥时, 忽听桥下一妇女大喊“我的H A I Z I啊”, 心想不好了, 就跳入河里救孩子。他在河里找了半天也不见孩子的影子, 只好垂头丧气地上岸。妇女看到他那副样子, 说: “算了吧, 不就是只H A I Z I嘛!” 他才知掉到河里的原来是只鞋。

では, 「妇女」は単に彼の姿を目にしただけではなく, 川から上がってがっくりしている彼の

様子をとらえたのであり、彼の姿からその気持ちを読み取った上で「算了吧，不就是只H A I Z I 嘛！」と言ったのである。

同様に，

(92) 我有时在电视上看到过靠气功一下子就把病人治好，好厉害呀。那是真的吧？
は、気功によって病人の治療が行われている場面を話者がテレビで見たことを表わしているが、治療の風景を見るとともに、気功による治療の驚くべき効果を見て驚いたために「好厉害呀」と言ったのである。

さらに，

(93) 黄浦江对岸是浦东开发区。可以看到许多新造的高楼大厦，还有一座四百多米的亚洲最高的电视塔。站在黄浦江边，看到了新老两个上海的面貌，我感到了上海的活力。
における話者は、上海の風景を映像としてとらえるのみならず、昔ながらの上海の姿、変わりつつある新しい上海の姿を観察した結果として「上海的活力」を感じたのである。

(94) 香港的回归是举世注目的一件大事。我们看到香港回归之后，依然持续繁荣，感到非常欣慰。

は、映像としての香港の姿にとどまらず、香港が中国に返還された後も相変わらず繁栄している様子を話者がとらえた表現であるが、この場合には、香港の町を具体的な風景として見たことではなく、中国に返還された後も依然として繁栄を続ける香港の状況を観察したことを表わす表現であり、観察した結果に対して「感到非常欣慰」という反応が生じているのである。(90)，(92)，(94)の「看到」を「看见」に置き換えると不自然な表現とされ，(91)，(93)の「看到」を「看见」に置き換えると，自然な表現として成立はするものの，表現の整合性が「看到」の場合よりも低くなるとされる。「看见」が映像のみをとらえる動作であるのに対し，「看到」が映像に加えてその内容をもとらえる動作であるということは，以下のような表現例において一層明白となる。

(95) 看到这信，她不由得哭了起来。

(96) 昨天我看到的一份杂志上说，现在以茶叶为出口商品的有二十多个国家。

(97) 前几天在报上看到一个标题，叫“要关心下岗工人的生活。”

(95)は，「この手紙を読んで（読み終えて），彼女は思わず泣き出した」という内容を表わす表現であるのに対し，

？(95)' 看见这信，她不由得哭了起来。

は，「この手紙を見て彼女は思わず泣き出した」ことを表わし，手紙の内容ではなく手紙そのものを見たことを表わす表現となる。場合によっては，封も開けていない手紙，すなわちまだ読んでもない手紙を見て彼女が泣き出したことを表わす表現ともなるため，不自然な表現とされる。同様に，(96)は，「現在では茶葉を輸出品としている国は二十カ国あまり存在する」という内容を雑誌で読んだことを表わす表現であるのに対し，

* (96)' 昨天我看见的一份杂志上说，现在以茶叶为出口商品的有二十多个国家。

の「看见」は、雑誌を読んだのではなく雑誌そのものを見たことを表わすため、後件の内容とは合わず非文とされる。「看见」は、例えば

(98) 我看见一本儿杂志在桌子上放着。

のように、雑誌が置いてある情景を見たことを表わす場合に用いられると自然な表現となる。

(98)の「看见」を「看到」に置き換えても自然な表現として成立するが、整合性は「看见」よりも低いとされる。(97)では、「标题」の具体的な内容が後件で述べられており、主体がそれを読んだことは明白であるため、「看到」が用いられている。この場合は「看见」を用いると不自然な表現とされる¹⁹⁾。

また、

(99) 你看到他了吗？

(99)' 你看见他了吗？

は、「あなたは彼に会いましたか」、「あなたは彼の姿を見かけましたか」のいずれの内容を表わすこともできるが、(99)は「あなたは彼に会いましたか」の意味がより強いのに対し、(99)'は「あなたは彼の姿を見かけましたか」の意味がより強いという相違が見られる。

同様に、

(100) 昨天我看到他了。

(100)' 昨天我看见他了。

の両者を比較した場合にも、(100)は、「昨日私は彼に会った」の意味がより強いのに対し、(100)'は、「昨日私は彼の姿を見かけた」の意味がより強い。このことは、(100)に対しては、例えば

(101) 昨天我看到他了，他精神状态不太好。

のように、彼に会ったことを前提とする内容の後件を続けることも、さらには

(101)' 昨天我看到他了，他穿着一件红毛衣。

のように、彼の姿を見かけたことを前提とする後件を続けることもできるのに対し、(100)'の場合には、

？(102) 昨天我看见他了，他精神状态不太好。

は自然な表現としては成立しないが、

(102)' 昨天我看见他了，他穿着一件红毛衣。

なら自然な表現として成立するという点からも明白である。さらに、

(103) 党委书记奚流同志叫我到他家里去一次。我真怕去。一看见她的妻子陈玉立，我就要想起那一段屈辱而痛苦的日子。

は、「我」が「陈玉立」の姿を見たとともに過去のいまわしい日々を思い出すという内容を表わしているため「看见」を用いている。「看见」を「看到」に置き換えると表現の整合性が劣るとされる。

ところで、以下の表現例においては、どんな内容の映像が見えるかではなく、主体の視力

が問題とされている。

(104) 猫在夜里也能看见东西。

(105) 病好了之后, 右眼睛看不见了。

(104)における「东西」は特定のモノではなく、モノ全般を表わしている。表現の重点は、「何が見えるか」ではなく「見えるかどうか」であるが、「看见」を「看到」に置き換えると表現の整合性が低くなるとされる。また、(105)は「右目の視力が失われた」ことを表わし、客体を表わす成分を含んでいないのに対し、

* (105)' 病好了之后, 右眼睛看不到了。

は、「右目がなくなっていた」という内容を表わす表現となり、「右眼睛」は「看不到」の客体となるため非文とされる。このことは、「看见」よりも「看到」の方が、客体に対する必須度が高いということを意味する。(104)、(105)に対し、

(106) 自己的脸庞不用镜子照就看不到。

の場合には、「自分の顔は鏡を使わなければ見ることはできない」を表わし、表現の重点は「目が見えるかどうか」ではなく「自分の顔が見えるかどうか」にある。このことは、(106)の「自己的脸庞」は(104)の「东西」よりも情報価値が高いことを意味し、従って、(106)は(104)よりも客体に対してより一層比重を置いた表現であるといえることができる。(106)の「-到」を「-见」に置き換えると非文あるいは不自然な表現とされる²⁰⁾。

「看见」は視力を問題とする場合に用いることができる表現形式であるため、否定形で用いられると、視界に何も入らなかったことを表わす表現となる場合がある。例えば

(107) 我看了, 但是没看到。

(107)' 我看了, 但是没看见。

では、前者は「見えたことは見えたが、はっきりとは見えなかった」ことを表わすのに対し、後者は「まったく見えなかった」ことを表わすという相違が見られる。「看到」を用いた(107)の場合、視覚によってはっきりと客体をとらえることはできなかったが、視界には入っていたことになる。一方、「看见」を用いた(107)'の場合、主体の視力は正常であっても、客体は視界にはまったく入っていなかったことになる。このことは、以下の表現例において一層明白となる。

(108) 因为漆黑, 我什么也看不到。

(108)' 因为漆黑, 我什么也看不见。

の両者を比較すると、(108)は、例えば「真っ暗な闇の中に何かがある(or いる)ことはわかるが、それがどんなものであるかはっきりとは見えない」こと、すなわち「視覚によって客体をはっきりととらえることができない」ことを表わすのに対し、(108)'は、「真っ暗で何も見えない」ことを表わすという相違が見られる。

このように、「看到」は「何が見えるか」に比重を置いた表現形式であるのに対し、「看见」は「見えるかどうか」に比重を置いた表現形式であるが、このことは、以下の表現例におい

ても同様である。

(109) 电灯太暗。画看不到。

(109)' 电灯太暗。画看不见。

の両者を比較すると、(109)'の方が better であるとされるが、これは、電灯が暗ければ絵が見えないだけでなく、視界全体が見えにくくなるためである。これに対し、

(110) 有几个人站在画前。一动不动。后面的人只能看到画上的上半部分和他们的背影。

(110)' 有几个人站在画前。一动不动。后面的人只能看见画上的上半部分和他们的背影。

においては、前にヒトが立っていて視界をさえぎっているために絵が見えないのであって、主体の視力に問題があるわけでも、暗くて視界全体が見えにくいためでもないため、「看见」を用いた(110)'よりは「看到」を用いた(110)の方が better であるとされる。

また、

(111) 看到船了。我们得救了。

(111)' 看见船了。我们得救了。

はいずれも、「船が見えるぞ。俺たちは助かったんだ。」という内容を表わすことができるが、「見えた」ことだけでなく「船が見えた」ことに対して後件の内容が続くのであるため、(111)'よりも(111)の方が better であるとされる。これに対し、

(112) 从外面能看到啊。请把窗帘拉上！

(112)' 从外面能看见啊。请把窗帘拉上！

は、「おもてから見えるよ。カーテンを引きなさい。」という内容を表わすが、「見える」のは都合が悪いからカーテンを引くのであるため、このような場合には「看见」を用いた(112)'は自然な表現として成立するが、「看到」を用いた(112)は不自然とされるか、あるいは(112)'よりも整合性が劣るとされる。この外、

(113) 我亲眼看到的。

(113)' 我亲眼看见的。

は、「亲眼」を含んでおり、「(自分の目で)見た」ことに重点を置いた表現であるのは明白であるため、(113)'の方が better であるとされる。

一方、

(114) 把看到的如时说出。

(115) 看到什么就说什么。

においては、「何を見たか」が表現の重点となっていることは明白であるため、いずれも「看到」が用いられているが、「看见」に置き換えると表現の整合性が低くなるとされる。

(116) 甲：小黄，我再问个问题。说是万里长城，真的有一万里吗？从前的一些词里常有些夸张的说法，不是吗？比如什么“白发三千丈”。

乙：对，对。还有“千篇一律”“千载难逢”也是。不过这里说的“万里”是不折不扣的一万里。不，恐怕还要长呢。因为按照中国现在的里程，1里是500米，可秦汉

时期1里是400多米。当时说的万里，就是相当于4000多公里。我们再看看现在的长城，在地图上测量是长2700公里，不过那是照平面算的。实际上长城大多修建在山岳地带，弯弯曲曲，有的还是双重，甚至三重呢，把这些都算在一起的话，一般都认为超过了5000公里了。啊，说着说着已经看见长城了。

は、長城についてのいろいろな紹介がなされていた間に、話者と聞き手が乗ったバスが長城に近づいていつのまにか長城が見えていたという場面で用いられており、「長城」よりも「見えた」ことを表わす方に比重が置かれた表現であることは明白であるため、「看见」が用いられている。同様に、

* (117) 字写得这么小，谁看得到？

(117)' 字写得这么小，谁看得见？

の場合も、前件において聞き手の書いた字のことがすでに話題に出されており、その字が見えるか見えないかというレベルで「誰にも見えませんよ」といっているため、(117)'は自然な表現として成立するのに対し、(117)は非文もしくは不自然な表現とされる。

4. 1 「V到」と「V见」との相違点

これまでに述べた「V到」と「V见」との相違をまとめると、以下のようになる。

「V见」は、感覚器官によって客体としての映像、音声、においをとらえることを表わすのに対し、「V到」は、感覚器官によってそれらの客体をとらえると共に、頭脳によってその内容をもとらえることを表わす。従って、「見た、聞いた、におった(嗅いだ)」ことに対する評価(話者の判断や主体の反応)を表わす場合には、「V见」よりも「V到」を用いる方が better である。これは、話者(or 主体)が客体をとらえ、それらの客体が表わす状況を理解した上で評価が行なわれるためである。また、「V见」の客体は、一般に具体的な個別の映像、音声、においを表わす成分であるのに対し、「V到」の客体は、具体的な概念を表わす成分の外、抽象的な概念(ex. 想像上の情景、人から伝え聞いた情報やうわさ、記憶に残っているにおい)を表わす成分である場合も存在するが、これは、客体をとらえる際に頭脳の働きが加わることを含意する「V到」の働きによる。

無意志的な動作を表わす場合には「V到」よりも「V见」を用いる方が better である。「V见」は、主体が予期せずに客体をとらえたことを表わす場合や、主体の意志と関わりなく何かが見えたり聞こえたり、あるいはにおったりしたような場面についての情景描写を行なう場合に用いられる。これに対し、「V到」は有意志、無意志いずれの動作を表わすこともできるため、主体があらかじめ客体をとらえようと意図していた場合や、そのような意図がなくても、発話時に客体に対して肯定的価値判断をしている場合には「V见」よりも「V到」が用いられる傾向がある。これは、客体に対する肯定的価値判断は、客体をとらえようという

意志につながるためであると考えられる。また、「V到」は、命令表現のように主体の意志そのものを表わすことができることから明らかなように、動作が実際に行われたという事実を前提としないで用いることが可能であるのに対し、「V見」にはそのような用法はなく、動作が行われたという事実を前提として用いられるという相違がある。

以上のことから、「V到」は動作表現としての、「V見」は描写表現としての性格がより強いといえる。「V到」は、客体をとらえると同時に、頭脳によってその内容をとらえることをも表わすため、「V見」よりも客体に対する必須度が高く、客体の情報価値も、「V到」の表現における方が高い。このことは、動作表現としての「V到」の表現は「どんな映像、音声、においをとらえたか」を表わすのに対し、描写表現としての「V見」の表現は、「映像、音声、においをとらえたかどうか」を表わすということを意味する。

「-到」が「-見」よりも客体に対する必須度が高いのは、到達点を表わす成分としての「到」本来の働きから生じていると考えられる。「V到」の表現における客体は、視覚、聴覚、嗅覚を用いた動作がいきつく一種の到達点であり²¹⁾、コトガラにおける不可欠の成分である。これに対し、「V見」の表現の場合には、視覚、聴覚、嗅覚そのものについて問題とする表現に見られるように、客体は必ずしも不可欠の成分ではない²²⁾。このことは、「-見」が主として感覚動詞に後置されるのに対し、「-到」は感覚動詞の外、例えば「买、找、收」のような、客体を不可欠の成分とする動詞に後置されて動作の実現を表わすことができることによって明白であり²³⁾、同じく動作の結果を表わす成分が附加されていても、「V到」は「V見」に比べ、主体から客体に対して動作が及ぶというニュアンスがより強い、換言すれば、主体から客体に対する方向性がより強いことを意味する。従って、「V見」の表現よりも「V到」の表現の方が、他動詞表現としての性格がより強いといえることができる。

「見」は本来、「視覚によって映像をとらえること」を表わす動詞であり、補語として感覚動詞に後置される場合には、視覚以外の聴覚、嗅覚による動作についても用いられるという点において用法の拡大が見られる。しかし、「-見」が表わす動作の実現は「感覚器官によって映像、音声、においをとらえること」であり、「-到」のそれよりも具体的かつ限定された概念である。これに対し、「-到」が表わす動作の実現は「動作の客体への到達」であり、それは同時に「動作が実現という到達点に達すること」でもあるため²⁴⁾、「-見」が表わすそれよりも抽象的かつ広範な概念であることは明白である。平井・成戸 1999 で述べたように、「V到」はいわゆる主要部前項型の表現形式であり²⁵⁾、「-到」は前項であるVに従属する形で動作の実現を表わす。一方、「-見」は「-到」よりも具体的な概念を表わし、特に「看见」においては「看」よりも「見」の方に意味的な比重が置かれている。このことは、例えば

(118) 他进了门一看，就**见**一个蝈蝈笼子挂在窗前葫芦架上。

のように、「見」が「看」とは別に一つの動詞として用いられる表現の存在によっても明白である。(118)では、「一个蝈蝈笼子挂在窗前葫芦架上」という情景と直接的に結びついている

のは「見」であり、「看」は「見る」動作そのものを表わすにとどまるため、客体との関わりという点においては、「看」よりも「見」の方が意味的に重要であるといえることができる。

(118)における「看」は、例えば

(119) 扭头**见**前面走廊拐弯处走来几个穿白衣服**的**医生。

における「扭头」が「前面走廊拐弯处走来几个穿白衣服**的**医生」と直接的に結びつかないのと同様に、「**见**」とは切り離された一つの動作として表現されている。「看见」における「**见**」は、「**看**」とは別個の動作ではないが、「看到」の「**到**」が前項の「**看**」に完全に従属しているのに比べると意味的な独立性が強く、「看见」という形式の中で中心的な役割を果たしている。このことは、(118)の「**见**」は「看见」に置き換えることができるが、「看到」に置き換えることはできないという点によっても明白である。さらに、「看见」は無意志の動作を表わす点においていわゆる自動詞的な性格を有しているといえることができるが、このような性格は「**-见**」によって附与されている。これらのことから、「看见」は主要部後項型の表現形式としての性格を有しているといえることができる²⁰⁾。「听见」、「闻见」における「**-见**」は、「看见」におけるそれよりも意味的に抽象化されてはいるが、「感觉器官によって客体をとらえる」という限定された意味を表わしており、前項の「听、闻」に対して自動詞的な性格を附与する点では「看见」の場合と同様である。従って、「听见」、「闻见」は「听到」、「闻到」に比べると、主要部後項型の表現形式としての性格がより強いといえることができる。

4. 2 「**-到**」、「**-见**」選択の主たる要因

最後に、これまでに明らかとなった「**-到**」、「**-见**」の特徴にあてはまりにくい用例について考察を加えることとする。例えば(10)', (62)は、すでに述べたように、「**-见**」を用いることで表現の描写性を高める効果を生じている。(10)', (62)における音声、映像はいずれも具体的なものではないため、本来ならばそれぞれ「听到」、「看到」を用いるべきところであるが、場面を生き生きと描写することを主たる表現意図とした結果として「听见」、「看见」が選択されているのである。

また、

(33)''' 我听**见**有人说话了，是不是有人进来了，咱们换个地方说话。

は、話者の判断を表わす後件「是不是有人进来了，咱们换个地方说话」を含んでいるにも拘わらず「听见」を用いている。一般に、話者の判断を表わす表現の場合には「**-见**」よりも「**-到**」を用いる方が better であるが、これはあくまでも傾向であって、「**-见**」の使用を全く排除するものではない。同様に、(41)の「**-到**」を「**-见**」に置き換えると表現の整合性は低くなるが、自然な表現として成立する。

さらに、

(120) 我的眼睛好极了，能看**到**远处的那个人。

は、「我」の視力がよいことを表わしているため「看见」を用いることも可能であるが、「看到」を用いることにより、ただ「那个人」が見えるだけではなく、「那个人」がいるような遠くまで見えるのだということがより強く感じられる表現となっている。この場合の「那个人」は、「看见」を用いた場合よりも、「看」という動作の到達点としての性格をより強く帯びているといえることができる。

(73)は、前述したように、客体を描写する部分と話者の判断を表わす部分とが共起しているが、話者の判断を表わす部分が最後に置かれており、話者の主たる表現意図が、客体に対する肯定的な価値判断を述べることにあるため、「看到」が用いられている。

同様に、

(121) 《C城大学文化大革命如火如荼，走资派溪流终于被揪了出来》。这是我偶然看到报纸上的一条消息的标题。

においては、無意志的な動作であることを明示する「偶然」が存在するにも拘わらず「看到」が用いられている。(121)は、「新聞を読む」という動作を行っている時に「标题」を目にしてその内容を理解したという事実が前提となっており、それが偶然のコトガラであることよりも重要であることと、「-到」が有意志・無意志いずれの動作を表わす場合にも用いることができる成分であることによる。

このように、「-到」、「-见」の選択に際してはそれぞれの特徴が反映されるが、最終的には、話者の主たる表現意図やコトガラの中心的内容が何であるかという要因によって決定されると考えられる。

註)

- 10) (43)における「看见」については3.2で考察する。
- 11) 大島吉郎 1992「‘动・到’と‘动・着’の分布について—《红楼梦》を中心に—」『大東文化大学紀要』第31号 p.359は、「我有鼻炎，闻不着味儿。」を、個別のにおいではなく、においそのものに言及する表現であるとしている。この表現は、「我有鼻炎，闻不到味儿。」よりは「我有鼻炎，闻不见味儿。」に近い内容を表わすとされる。
- 12) このような現象は、成戸浩嗣 2000「感覚動詞に後置される『-到、-见』（その1）」『コミュニティ政策学部紀要』第3号 愛知学泉大学コミュニティ政策学部 p.84の(24)と共通している。
- 13) 「闻到」を用いた表現である(41)においても、後件は話者の判断を表わしている。
- 14) 同様の表現例としては、「她细长的手臂摆动，短粗的双辫跳跃着。从我看见她的时候起，她就是这个姿势。」が挙げられる。
- 15) 成戸 2000 前掲書 p.80の(11)と(11)'との間にも同様の相違が見られる。
- 16) 「从火车的车窗里看见了海」と同様の表現例としては、例えば「街上看不见人影儿」が挙げられる。この表現例は、「通りには人の姿が見えない」というコトガラを表わしているが、「街上没有人」と同様に、「通りには人がいない」という情景を客観的に描写する働きを有している。これに対し、「街上看不到人影儿」は、「通りには人がいるはずだ」という話者の予測を前提とした表現であり、「通りには人の姿(見えるはずなのに)見えない」というコトガラを表わす表現である。
- 17) 山崎吾妻 1981「動作表現に関する一考察」『日本語と中国語の対照研究—第6号—』日本語と中国語対照研究会編 p.36は、中国語の「看」が「见」、「到」等の結果補語をとったり(看见・看到)、無意志動詞専用の「见」に変わったりすると非恣意的な知覚行為を表わすとしている。但し、(67)、(67)'に見

- られるように、無意志の動作を表わす場合には「看到」よりも「看见」を用いる方がより適切であり、また、(64)に見られるように、「看到」は意志的な動作を表わす表現にも用いることができる形式である。従って、「看到」を、常に非恣意的な知覚行為を表わす表現形式であると断定することはできない。
- 18) (1), (68), (70) はいずれもそれ自身で一つの完結したコトガラを表わす表現であり、単独で用いることができる(前件、後件は特に必要ではない)とされる。
- 19) (79)の「看到」は、「(主体が自分の目で)見る」、「(本などで)読む」のいずれに解することも可能であるとされる。このことから、内容理解を伴う「看到」が「読む」という概念に通じることは明白である。
- 20) (104), (105)と同様の表現例で「听见」を用いたものとしては、例えば「得了病以后, 这只耳朵听不见了。」が挙げられ、「听不到」を用いた場合よりも better であるとされる。
- 21) 「一句话也没听到耳朵里去。」における「-到」は、空間的な到達点を示す本来の働きをしており、「因为有事, 所以没有看到最后。」においては時間的な到達点を表わしている。これに対し、「我的眼睛好极了, 能看到远处的那个人。」「远处可以看到流水的尽头。」における「-到」は動作の実現を表わしているが、「-见」に置き換えた表現と比較すると、「遠くまで見えた」というニュアンスがより強く感じられるため、到達点を表わす成分としての性格が残っていると考えられる。
- 22) 聴覚を問題とする場合の例としては、例えば「使用这个助听器, 耳朵听不见的人也可以听到。」における「听不见」が挙げられる。文末の「听到」は聴覚について述べた部分ではなく、「聞きたい」という意志を前提とした動作を表わす。
- 23) この点については、成戸 2000 前掲書 p.80, 成戸浩嗣 1999「中国語の“到”とそれに類する表現について」『コミュニティ政策学部紀要』第2号 愛知学泉大学コミュニティ政策学部 p.35 を参照。成戸 1999 は、「买, 找, 收」のような非感覚動詞に「-到」が後置された場合についての考察を行なったものであるが、「-到」の概念は、感覚動詞に後置された場合においても基本的には変わらないと考えられる。
- 24) 平井勝利・成戸浩嗣 1999「中国語の“V到”とそれに対応する日本語の表現」『言語文化論集』第XX巻第2号 名古屋大学言語文化部 p.104-105, 成戸 1999 前掲書 p.24-26
- 25) 平井・成戸前掲書 p.98-100
- 26) 山口直人 1993「日本語と中国語の複合動詞に関する対照研究」『東亜大学研究論叢一八-一』p.123 は、主要部を「派生語や複合動詞全体の品詞や統語的、意味的素性を決定する要素」ととし、複合動詞の主要部を、1. 意味的な重点は前項、後項のいずれであるか、2. 複合動詞全体の自・他を決めるのはいずれか、3. 文中の名詞句と共起し得るのはいずれか、という基準によって認定している。